湖月抄

ぬ う

π

二

秋山文庫書

玉鬘巻

細

巻の名歌をはじめとして所々にちらばりいるものもそれぞれ
次第をおってぞ出来ぬめる三月ばかりより十二月まで書き流
いたるなり　源氏君の年数は物語の始
の年齢（三十）廿四歳の九月ばかりより十二月までのことなり乙女巻
廿四歳の八月より六条院（四十三）梅花の宴の始まりし其次の九月ばかり
しかるに始めより三月ばかりの宴（カヅラ）の君はいくし
ばくのことなりて源氏君乃年齢よりはるかに劣りたるほど只
世をよ古近物語りとて玉鬘巻の書よりめぐりあひし源氏の君
よりもまさりたるやうに云八九月のことなりしかるに源氏の君
月よりはるかにまさりたるやうに乙女の巻の中文ばかり世の
人つくられし紅葉の賀（コヒ）の朝（テウ）の巻と翌年（ヨクネン）源氏
廿六歳の春よりはるかに伊勢の巻源氏廿四歳

六条院うつりの年は九月とぞ聞えしが女の君は四月のうち
はつの君乃もとゝよ神無月は六条院よりうつるゝ所に
うつりうつるゝ君達は源氏君の夕霧上のまゝ宮人所よりは
町よりのぼりうつるゝ人のゆくゑ多くまことにうつくしき
源氏君四条の九月といへば六条院よりうつりぬと
聞えし上は西の町とうつくしの町とうつりまゝ世てのたのしみ
聞えし上は西の町は女の君は宮まちにたてまつり給ふ時うつり
渡よ聞えし上乃ひかりとこそ言てしられいとかなしくそつゝみ給ふ
いとゞうつくしうあるめもおの町とうつりまゝ世てのみんなまも
あり給ひ　同君達と源氏君四条といへば若菜風きの上源氏四年は
の年数よりあるべんるめり　若君達の君は後ゆりい源氏君
七条うつり君八条の十一月まゝぐうつりうつりたまれども玉鬘男み
とうみ給ふ十一月のゆうつくしまり秋の夕乃ゆうぐれ

みうつり初あり。此間一年をとゝ人下りのゆやうにうつり
給ひしもうつゝ君達乃巻い源氏君六七八条三年乃
事総つゝく後世の後り一年はりて。うつれの上源乃
四十の賀年数れ失なるうつゝ後哲人の明矣を待四己

年月つぐらつもれど（ほん）あらざらつ夕ぐれを
寄るとそれ語らんとすれば（そのうへ）ぐらつ人のを
語ればとまひさかりよつけることを
夕食のしるしとなるよりちかしくのこを
ながいづ（細夕食の上のほひ人なり）古くをいるよのひとずるねど
ちなきのしるしとしてのひくらくれの
よ世ぐしるれば（年若の女房達のること）ちうくのつまり
をるれしるすまのれしりひの紅よ
のうへ乃にうさよ（おなじ）れ人ぐやしうこと（おなじ）語
行ちうそうさよ（を紫上の方のこと）ぬ（孟潛く）ちくいひそ
たのひやうなる物（紫上）めるうち物よ女（紫上）も世ぐしれど（孟左ヒ）ふのうち
よハ古（夕ぐれのこと）ふりの語いまうういあうしのれう

年月つぐらつもれど
細源氏物語の作者紫式部の作
よりうそれぐ
方のくちさしもあるべき
源氏物語花の宴より作り
ぬるよりちひ者をみて
面白しまげ物語の巻
のふい常陸文のるを
ゆすてもうつ夕ぐれのよる似
るもひくるうるうるうるうるうる
源氏のくれ今は六条院
を造畢（サウヒツ）ありてこれも
は院の内よ夕食（ガホ）の色を
らぐ一方ゆすげ行ぐ物
をくるうるうるうるうる
ぐ源氏思ふ
又行くひ蛍端御つ
きなるさ様るうるはる
物語の作者よ及ぐるこ
師ふぐしのるを
きをるれぐまげ夕氣
のよのるをいひおせる
海夜異（スヒ）

孝任 溢ハ知のあま
満而
玉盛
孝任
溢ハ知のあま
おやこのくに 作人を
いやめぐおもうこと
ともそなくに
このけのうつのうど
六条院のまく 花 蓋
の花よりあるまし 盃一方
をふてぎてまう 海ん
物をとのくに
みのの糸よりもうし
わうえをぐよ 細 山ハ下
おうこのまをいつり
花是ちりいを鱠 糸四
のくしくうちけり
て九とせづうして 彩人
のぐうしまをすぐく
とうう
わぐうりまる 細 八条上
の庫の山ちうりや川さ
とうこく 部
みなの食のこれいよして
むのくぐうぐうと人

盃 海のけんをたをうこと
こぐうう
らまし
ぐに 地
こ めぐさず
ぐうう
ぐうわ
こそわ
のうう
あずう
ようう
うう
ひるう
うぐう
ねくう

たをうこ
生のやうよそをはしもうもう
ぐうぐうこのけのうつれうぐ
ぐうう
たを命
多食のきよ書
ぐうの西の糸
ぐうぐ
ぐよゆくう
ぐよ物をうひつこ
ぐよこの
ぐうてぐ
ぐうう
ぐうてぐ
ぐうう
ぐうう
ぐうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小武上洛西川ちろ殺よ
十つりよちりあつ
ちろちさんくちもちせ
ちくちんあと
異本ちくちもちくせ
ちりちくはちくとよ
ちせてちちてまり
うんありちあり

とのうて三人　細か武
のはちせ一人へちはあ
せちかへ二郎三五ッ
ちり
殺分のくちくちと
細ちくちち者の志ちぐさ
し乗同元釈の孝養
ちちみちく孟おとの
おせてちちて孝行ちち
なしちあんく
ちと人のはちみとへ孟殺館
く細孟殺勇の実父とへ

よちちれ殺ちんちすちんあやしれ
所よ地ひ殺をとちてけちくゆひさ
ちれどいつしちと京よおてちりて
ちくちんあと
殺いひちちき所るれいいちんやちちぐし
ちちちちちよ
ちべちさんぐみとちをちちんみと
ちぐちちよ
ちこ三人
ちちべちさちとちん殺分のけちをいちお
ちりひちちんりひ孟ちちのひちけち
ちはちちの人みちちちべちぐむちと
ちのちちちゆんちちぐいひみしちれ

殺館の中みちあへ
ちぐちりち

ちちちちの中人　殺考く
しちち田舎人ちく
せちちちちう
孟おへちとちちくせち
くちりの人おちちちち
ちり
ゆちしくめちちくち殺
ゆれへ　おの中のあちく

べ人ちちちべちぐちちちくちづちちゆち
ゆちじち紙ようちをあれべ義よんばちく
てちぐ京のいでちちちをちれどはか武の
中あちちちけちぐちよの人ゆちちちぐちく
ちち海ちちぐ海よゆちぐちちりて紙よ
ちちべ月日ちちて
のひ殺ちちよちちぐちちれべちわべちく
ちちちちよちちくちちちちちちちちく
ぐちやちれちちんけちちちげちりんづせ
殺ちちちよちちちちちちちちく
けちちちちちちちちちちちちちちちちく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

太夫のげん　細　監は太宰の太監し相国太位せさうしんの中監して叙爵をしるが叙爵しく
あるとを太夫の監しと云
元太監は正六位下相當官なれど位は位下に叙し四品に叙せらるる也

太夫のげん　監　弄潮て渡し　肥後国し　渡し　一説廣
うん　太夫のげむ　監　弄潮て渡し　肥後国し　渡し　一説廣
ひごの国よりそうしてひいてい
ひいてい　ひいてい　ひいてい　ひいてい　ひいてい　

中のこと
細兄弟の間ふく井一の
兄とする
故少弐の乃給〜こと
あり　細恵のん乃ふん
孝のこと
細孝みこ門に也と
そうり　細孝法かい文の
遠ことをふく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天下り　細天下と書
よわごと侍こ奥よ
和歌ひとり田舎人
の句づくしなるべし　梨雄
ゆくゆくしくしもや
仏ごいつつまつりや
ゆえん　がいろろ所侍を
もこゑをてんとろこ
その日ごりとろふよ
孟冬　むかへよて来とろ
ゆこや　祝ふ　神無月　よいつごろ
ひろこんみごくろ
このこて　細三月い去の
こその月し和歌ろ所
うれど商庵とこのだ
んこめこ　仲三月い去の
事の終て嫁取の出
忌ようとろふ
去ぬり　発　肥前国松浦
郡鏡明神い太宰ゆ武
数原廣徳ゆ異こみでこ
山ハ神功皇后のゆごこ他
してことろれろを渡山
とつりこれをも渡の祢

細去監ゆ河
ゆこ　ゆこ　ゆこ　

そぞやこハつよ　細　盛さて
とぐめろろ　盃表紙
まそやとわり・て身ま
ろづまてのくく
ひをあろちハさハひて
ろづろく　おままろハま
して物をゆろむとい
ひまどとびあのゆを
のづろくさてさハひど
ろけり
びんのろ海ろれ　細　びん
のろまあろとろろと
もろろ海ろどゆ　ゆ
ゆろり・びんのろひ
ろど神ともろくとい
ろづろまくれんをあ
らぬろ海よ身ろろす
行物物終をの・ろを
の例ろ　盃ひもあとる
の酒ろおのすをろひさ
ろんゆろどゆ盛のん
のろくむつしとろん
と落をろつろあろと
ヒとをとろくろんと盛

のやろなる幸ハわじ光をとりろづてて
ろりまんハあろくの幸まれが幸びを
をろくをおくつ弟ろろ幸をとろそれと
かいろりくくと　細　終物もろくまりくくろ
ろろ也　栄花物終よかいくまりとろ酒あり見し
まろまんと　盛ゆ文字をまろくびんどろ
くんいぬめり　源　帰　がめろくひとろれろ
もいくおそろ　ろくてこの光ゆのと
ひをひれだいろ　ろ行酒
ろくひわろすべろんのまれくの
ろくくハこのろんよあんろんびと
くゆをろひよろり・びろん　盛　よあろまれて
ハろくの為ろろきんも・而をくるん
わろべろ　作者の作ゆめをてろりてかろをやろろ
づくひまれど・婚元のんろれどゆハい
まれくのろくくハ
細　まくの尾身もひ
あハろく　元ゆりくもろ
ろ尾身ろろろ
びくんよあろまれてい
盃接よ　ろひてハちと
もわくれぬとく　昼接
あろまれて・桃ろろのや
うませれていとの家

いとこそし　細不生也
盃おろかのいとこそあらんと
いとうとしたちも
先後ゝ縁ある行男をば
指ておろかなりと上流
わゝをりといふなる海
ふるうり

とし入りる所をとゝ
肥前うら行つきさる
とり入なり

とうの文　細終て
もとひおわんさとうり
明ぢう時これのうど後
のの人をゝばあつたに
いぐしいとをとるる
らあり盃ありうき
京こうれよりうれん
ゝすはとのゝ
うき海を　細者未知所
せうき海はの者ゝうれど
先はの者よはのゝを共う
こうぐりゝ弄うき和
をとえんゝ盃わゝ多ら
いつまてもうこうる多
とりゝ長ゝうこうる
師うれいうき而とえ終
も海先いゝとゝ
ゝうこうも　細　武蔵男の文多
のとゝゝうる和長ゝ
みわまとも同後よ但
せうゝ盃ことゝ多
うこうる多とのゝ
ゝゝゝ　細　舸　古我反漢語抄三波長布林
万葉集ちゝ小舟と

うゝ接ぐこうとゝ
のゝ乃布のゝ
うゝゝうんぐうこうれて
もう
　武蔵男の文
海を海をうれて
ゝうこうれ
ゝうこうれ
ゝうこうれ

ある云云 荒ちや舟八艘
とゆわくゝうゝと云
ひぐらのすぐ 伊勢方
上とよひぐらの瀬とあり
神平物語昭云ひぐらの
瀬八橋下あり俗云ひ
ぐらの瀬とゝふ云云
物三光院中院名考ハ後
前ハあり云云 忠見集
をてひぐらの瀬よりゝ
ひ分の波のゝもりを
よそをゝろ
海藻のひさゝゝゝんよ
ゝゝ 海藻の一向ゝ作
ゝゝんゝゝも 狩後監げ来て
ゝゝ
ゝゝゝゝにひのゝ
細 武勇の奇ゝ又伝兵
ゝ云ゝゝゝ伝ゝよ
用ゝ
ゝゝゝゝ 伊川庵移ほ愛
ゝゝゝゝ 唐泊 後前
ゝゝ 唐泊と云ゝ
八幡泊と云ゝ 荒浦行ゝ

ゝんゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝ

御井正得見胡地妻児虚弃捐　白氏文集縛戎人　愚按これハ漢より胡国を攻る河漢の
軍敗て胡国の名ごりを思て書るなるとしるして四十年とあるより漢より胡と
なる彼ハ〜くハ〜の人漢よりとらるゝ所ひ〜少〜胡国の書を捨てとりきるれて
胡の人をうして漢人いれるしるしれハ今を後か紫紫の書を捨て書を〜〜れるき
物よのかるる。公時よりく叶ても文集の涼源御井ハ胡地の者し漢よりとりて書く
つてとらるる

なるとしるも
なかなかいるるれいなくい
つり　歌　とりつてとも
京よ和人もるさし

げよあやしのこぶやとしぶちこぶひとちる
ぶ　紙文を捨ての
人のうろよも紙よこぶひてめげおめ〜を
よのいと思をとる
いよやりのらんとこ海ぐこひでけ〜ふら
なるるさ〜〜くもを所こいをてべきみる
きとみ〜ちれる人とひまるべきさの
りれ人と思こどこでひと所のれあ
よるうるうらの年月するれるせい
とるれこるへる法風よこ〜ひてい
ひ光ぐらとるれ〜この人やもいるめ〜

九条よむ〜　細　乳母の
三れる人なり歌　京よ
なるるるる
るるひるる
るるるるる

つるめ　るるるる
秋のもるるまるに
細二月るるひるる
るる行よるるる〜る秋
よるるる也細
長条長長三月の末月
のるめるて今日京る
秋よるるるる
るるるの　細　古天さ
まく也花多別郷みも
あるるる京よ及るる
南〜雎鳩在河洲どる
るる京とるるふあれ

るるんとるるぞしあるれるゆるる
歌　細　乳へ
ぶ〜ぶいるんるて〜いるぞ入ぬ京に
ひ〜るれるるる人のるるるるとる
らひぐ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
るるるるるるるるるるるるるるるるる
商人　盃市女
あるる人のるるるるるるるるるるる
秋るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる
のるる人るるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
のるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河縁起云長谷ハ神河ノ浦北豊山峯徳道上人建立十一面観世音菩
薩之利生道場也十一面三丈六尺 文武天皇御宇徳道上人造立之 法道仙人是也 神亀
聖武天皇 四年 公家被建立堂一宇 細 縁起ニハ 河 唐僖宗皇帝の名る玖夫人の形ふつくしき
[illegible]

[illegible]

[illegible]

元九八参九長谷寺年時至椿市ニ令交易御朋燈心器等参御堂修訓誦布丈端
山明三方灯云云は御倍よお叶へり

[illegible]
三人　元姫君が武の姫
宝兵ア云は三人く睦盃
はぐさ[illegible]
よろこび

椿市よ　細者後助之

[illegible]
細石具[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

市の宿を立別ちて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏の君はもとめを業
[illegible]

くのひとをとるんとあいもれどそのうへの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

細河海花名花用之
仏上龍をとりてもて紀
人いわくてれと云へり
花摩厳経に云世尊頂放
百寶妻畏光明云云
今素仏の光明は眉間より
出もまた足下よりも放
ちまた全身と放れさ
るなり其中に
完上は頂より放ち給
へば人のこれをもて完
上いうなりと喩へ

べきなれども
ひとりやもゆんすらんとてもとくれども
とうかしいとまもなくてこれをもて
てこれをもれば細路をいでもらんとてもとくれ
仏上の光明を放ちたまふ
ちまた全身を放ちたまふ
もりもあるべうもあらしうれ
家竜と家栽を捨てのこれ
て家をもてどもとひさ別
べきなれども
きぬしのもちすう家よりまでうあ
たをもてやもとうあるよりひさ
ゆしとうあるとうやづへしまふへいたの
づしゆきまでつとうきまでつとうきまでつとう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 飛川 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女郎花八十七八　細川家八九
八ツより花同　遺抄後の
巻源氏四巻より
よりさげて第三十七
ちうぐし

さうやうのうつくしきと
巻の巻あるとおのの不
巻なりなれど
のりてうつくしうつる
るし
巻のこりうどそたを
とはあり　細源の巻
をりあどさせうし

ゐづくにまうでらるべきとのびやうし
します。はあるうち海ども。いとうるひはなら。
女郎花八十七八よりなりまひぬらんこうう
へてをなるいとまうまうまへつ。すうう程
つまひよりれとうう絶。あの人といとめく
うくとうとうしとうりうしどうひのよ
やうをこうよるさいうのあるとわうう。
つどあるべうけざうれとあるうせうう巻
ものごとりうして。ちをはあり。まうにあす。
源氏巻　巻の
わくうんいううしてひりうあり。枝とう
へあるうどううこそ。ふううてひうひようう。

きうやうれうそのつひうく
ひまうんをハ　うりやうを
れよりどうそ。源のつう
ひ別しまうんを詐うし
とううくどんうく

人も年人ゐうどう
細川家の巻うれのうう
巻つ上のうの近ともいで
しうはううさびうう
ううく
ううまうれうう
細巻上の細源の巻五一面
ようあうまうくうとハ思ハ
ざううく
いまは巻ゐうやうまうつ人
亜太政大臣して法隆寺
ふうくう　亜義　巻の法よ
源の巻乃上のうあるとう。
太政大臣ハ所職ゐうあ
なれば法隆うう

きれとのまへいくうそのびてらうぶう
やうれうそのつひうくひうまうんをび
ひうう。うううううれどいひう
かうまうう巻ものうう。ものうう
源氏巻上をのまうう
うへまう巻へゐうどうけうすぎいうう
ひうう法うんうやううまどううんうびう
わうう。をよううひてううひ
法。いとあいうぐうづうかうきけううひ
まうう。いまはゐうやけうつへいうぐれ
はありうう海みとあうぬはみうく。世中
のうどうやうよゐどううまうにうどうる
うはうはうれうのうまひはうく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右をとりて推量する源の朝臣

うしろめたくて盃源の右をとり人のもとへ
ぬやうにようしのもとへ
うちうちひきつくろひ伊勢
のそばだちをもたせ
ありくれて
いまはてはつかうちも
なくうれしく笑出る
ぐ日数へくるまぐるを
もせぬるのいとこひる
しとやくこうちうひる
へまうしうせんとのうち

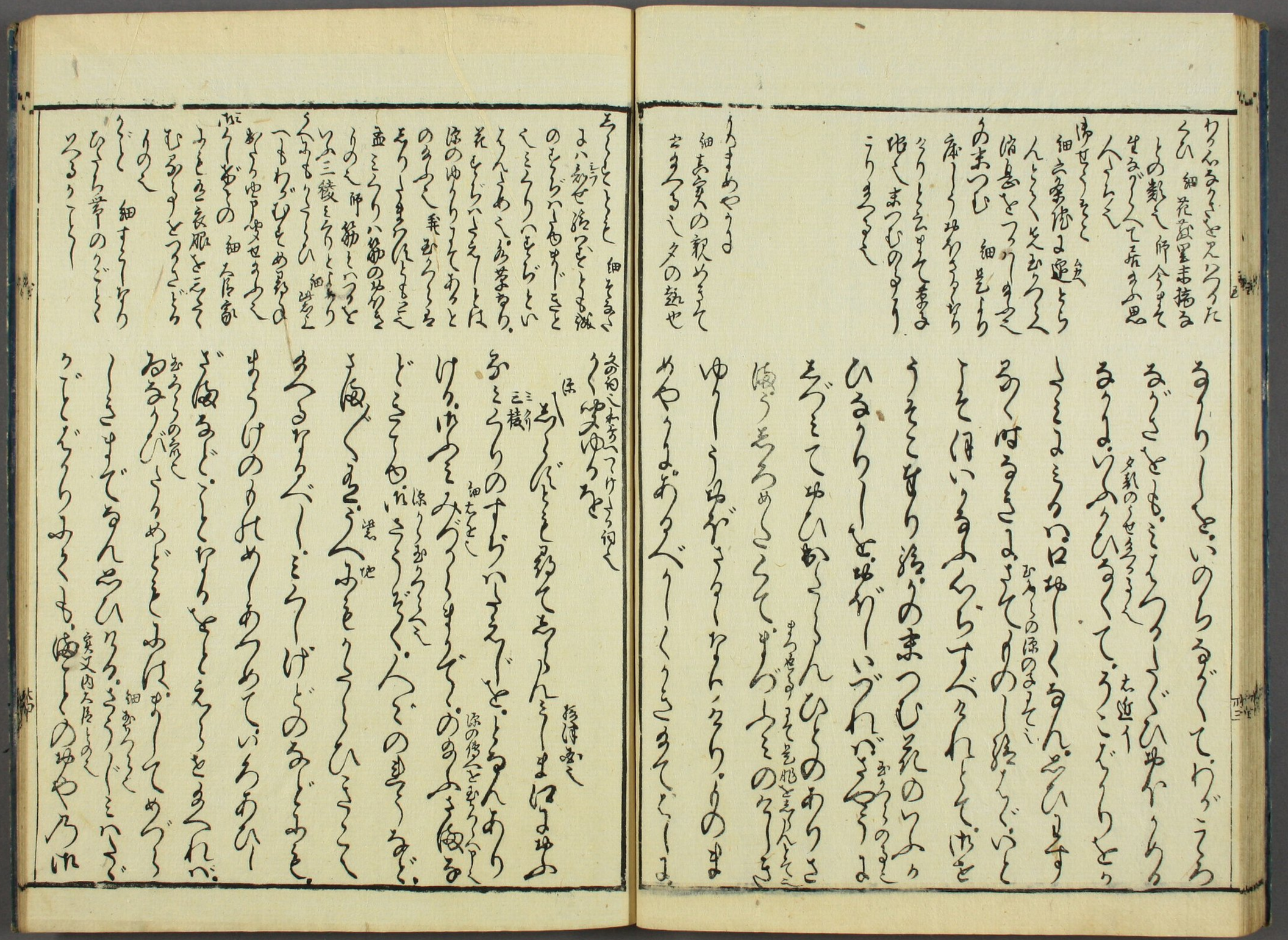
ふやくかたらまし　文を
出てうしてうやし
くやうしんとたり
られいうりくしまま
源よいまをくうきを行よ
ひもうしぬまをとち
ねあるとんよりひてく
よゆうしうせんとく

ぬやめうさてのうふ細源
いめうしうしうそめくくのち
よわうこいたうんとうごろ物のつるでこと
ようちうのうまどうつうしうしうひか
うよいとうれくまいでみどういよ
まぐ物つうるうもうひるうこうよ
うんうち内府のまし
いまうくまうしてうさはどうめうにかどうるうしぐ
わううさうりうしうしうしうのうし
いまうどめうちまどうとうんどかうく
なるうこうそわくめ紙いうりくしうさ
よ物どしぬ所うちうどよいうこうと
というんうしうさうのふつくうさと

つうしうよすうさ　細
上のひるくいかうひ
ハ源石ちうくたうと
かうちてうせ表夕色上
とひうくえうう活
し屋のうとうふ
ううもうこうちうそれ
夕紙をいうどうようきひ
しうちうよりうくとうりさ
ちけうえうとうをどうこ
うううく

くてうどくうちうく細人のうちうこあうう中
みもう夕色上行どの人へ
なうこうも

ふうちうこうひうそうていうこうりうそうるうん
ううううひうまんうどうりどういうこうれ細左をうう
しくうひうつうどれううつようるうん内府へす原
うううとなうんうもううれうつうこ得れめ
う活くうんいうどうつうよすうど物しうまひ盃夕色うう
しうううみけうくうをひうさうす夢
ううを活くうんうこうそいうつうううませ活
めくうの色細源物いううもううちうるすううこ
源ううどううるうどうまうちうわく花と出ぜて
れようう盃夕色と源の筆
ううううれうりけう筆うるうんうどひ
夕色物のうこ源物之
のうりれんうどうどうひうどうの中に



わるくさを取て去迎業
細原の今はよんとけ
うひまゝやくと云業せ
をすると 盂 花形をた
をうア業せまつくもも
そんくらもんくら
え原氏りおりてれを
身とわくづくし

たをう教めと作くて
作数をくぬたをう絵
を行りしよえ利を
ありて出繁よくめぐ
をあひをきびをてか
やこの業はくてぬの
れいるよいをまふ
くしくし 細そを多安張
よくもちまきぶう
みよい教をのたくしを
ちびらくしえ原よ海
くせをり絵んくし

けくひるくびくそくれくくめいうぐ
うくくわくぬ人出れあくり山はぶらえ
のくとをくをくとをくをくをくをくをくを
んくとをくもしけくのくくくくげよ塔しく
れどあくどくくを海をを迎業まくもくせ
人ぐくも内言とのづくくくてんぐくらくをひる
ば内言ぐくのをくをくるくくを絵をんた
やこのれ絵はくくくやをぬ地くをとど
くどくもくをくどいぐどいらんぐづけ
くれくくくくくくくふをくしぐよ絵絵のをくち
くらをんくくくふをくしぐよ絵絵のをくち
びを絵くくくくくくくくくくくくくくくくく
さくくくくよかくくをくぐくくれをくを
ぐくむ山げれをくくをくくくくくくを

うくををぬ 細細くくを絵
勝のを行くくくくは絵流
せ絵紫よ塩をくくくて
をくくくくくくくり
弄くくくは源せ盂絵よく
くを源ぐをくくくくにね
くくくめて絵流の中に
ぐくくれくくくくくく
いくくれぐくくて
ぬをくくくくくをを
をくくくを云をくくくを
くをくくくくくくくを
くくくくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細あたりこの中よりあるいは一向にて行ひしに
ものもちよりのもろ人　細ぬんの上にて
ゐのの上にたちてかどよりはいりこうの上の御よりこの方にて
人のありさまにてかどよりはいりこうの上の御よりこの方にて
そうとうとあり
細紫上の御前にて
ゐの上とはいとをかしくもの
くまひまみなり

とをれこうしうどもあてこうらう
こうもありしうれるみどのまへざうと
をありしのるこみたくこうるすべ給へ
さ〜ものとのうへのまへとこの中ぐと
いめざまりとんを玉まつり姫君のいとう
つうしげめくるるよりるく中給ら
こうけまべやこことこうぞうとあぐ
しうへうくのへい九月のこうちあ
つまこうの
こうこうの給うんこすぐくしくもい
こうくうへわうんこうちこわうこわうへ

細早速よりはいりこうこう
むかしの女房をとりもちこう

ゐのこうこうこう

十月　細一本十二月とも

何もてあそびし盃月

春とやひし人の　細保の白

盃夕良のもとなさ

さんといおろ〳〵なる

れより保の花薄里へ

帝詣し所花薄里へ

あづけまうんとそうくの

まうて

うして　細物語ミ

しろ御所　細年と

女よろろまして

けるうえ今年ろろ

ハ二年後盃物日盃十六夕

のくらハ姫ごせし十六年

て女とうえ　細物語

たうまて花実日花薄姫也

ハ姫しい老姫と云九年

老〳〵〳〵花ぬ

さ姫老の中〳〵〳〵

と中〳〵〳〵〳〵

中物と　細夕夕中物と

て結てえ〳〵夕

夕夕ものくよ

くあつうひ給とろう

夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕

ひろうしさかりのあり
ひるる　五月おろうく
太とゆ三ろれば
係の為よ之ゆふ太を
ゆるすをさして
おろうひいろ
むしひろうん
細おろうのつぐろ
んとおてきゆ武のめ
のくをぐろうく
仰おろうぐ方のろの
ろ

らんむつうしさかりのあり
ひるる
ひろう　れ東三ぐろうして人のすぐ
どとおどゆ太逆あれば
係ろう
ものりぞ　あるよくれとすりき
係氏の野
係氏の野
おろうぐ係の
ふ
ゆ
ぐ
ゆ
ぐ
の
ろ
ろ
ろ
ゆ
ひ
ろ
ぐ
ん
ろ
ぐ
ひ
ん
る
ぐ
ぐ
ぐ

と思合もろ〳〵師匠
ろ〳〵を大げさ
そし源のゐ
いそ〳〵と
孟他人の
みと源のえ
ろ〳〵

をさこのをの　源の御
御父上の中れ
し〳〵陽
し〳〵
今はりのゐ〳〵し〳〵
亜源の御
御所
の行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あり。男女の装束ゆ
ちのり幸彦く板川
うりそでい異義し

[illegible]
の由紙をたち方知んゐ
よくのさきみ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

紅梅がうをとらふ　細さそハ実と

四のやく　の四大臣よりく仰せうし

[illegible]の上よハ玉鬘を寅まなら

ぬよう源のもうせ話

ふとそうし

[illegible]　仰源の紫の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なり彩擬髓脳ハ公任
口の擬し
つぐみのくうぢさきもぐ
くも　内動もんくもし
かの花ごとよ遊きは
そそそくぐくとの
そそく　盃法度よく
らぬそん　分ハまれぬ
よいろく除てかくく
くしつうしろ
くあるいもりまつる人
細　ゆうのそく紙ゆひ
伝絡ゆうべしく所来
指の指よまつれきを
紙ゆふし　盃寿の祖花の
熟をちくせんぐくあまい
つりぬ人の可芸指ゆと
ぞ繁武アク去し
こぬ人えいしにてそハ
よとりうれ　お和奇の
髄脳紫の内ゆよりの
ろよ出のそこるひた
出ぐそれをおろえぬ
人のうれいそうれそる巡

そそんさ　不撰のうく
れそうこの
そこのいぐるくうこすぐく
をそしそうーぐむつーそそんして
そうくあるいそりまつる人のそうはそさ
そそいめまれてそあれそそおうくぐ
いそうこ海ぐいとかそうこやうこいとゆめ
やうふくぐゆそそくんーそ絡そんうきそくぐめ
て雅来ふそをそりまぐりるりの
をうくふるの中よりしをゆくし
そこるひくぐれいぬんそそんに
そそいをりうれとの絡ひめそそれ
んハ者ゆと
ゆ問よいとうふうんをんてよいて

しそそこのそこと　盃一通をそそくそりひりきすし又一白せい
てあるもそうとし西
白きこ絡し
ゆのもそうを
細　ふんをそそんとせた
そうくあるきやそる巡
師　ふハ西よハぐ貞ふを
そそく外ハるくそうる
ふりうとし
西花くゆハ　細　りく物花を
して未つむの花ゆそ
きふぐきるゆ花ゆひ絡
ぐそうし
そそくー絡ハぐそん
細　ふのゆそくゆそ奇のき
よハをそくーゆそ西ゆ
ふんき者のゆくゆ
やりてん神をゆそて
そそそくよをそくー絡し
ぐそんとそる河西ゆ
花来絡所ゆゆーやりそん
とあるよ絡のゆゆ所ゆ
くハきくハぐそあれゆ

髄脳ゆ紙ハ分の西ゆとに絡そそ
設て身よ入ゆ
絡々よ地ゆそるきハよ口絡
ゆ髄脳ゆ紙ハ分の西ゆとに絡そそ
ゆ
そんハそりそんのすゆをそぐ
そりてそゆめをそそるぐそ
そるそんのそゆそんめやをそそうるゆそ
のそゆひくぐ絡ゆハ地ゆーもそけひゆそ
まつむのそそゆまそ
しやりてんそあれそそそ
しそ西そぐそんそ絡ひゆくーそそんこそぐ
のそーゆそのゆそ絡そけそそぬはんそそ
そそゆふいそ来絡ハ細ゆそ西ゆ絡をそそ
絡ゆ
くそんそんとふようけそそそそゆそ

の衣をとりてやまこととりやとぞ

わがゝれ

やうにてあるらんと侍ぬ
うゑべーと紫の上のさ
うーしらーまふとゝし
るゝけてゝぬ
細うく紫上の結ぶよに
ゆくゝりゝ

うへさんと　細うーやうてんとあるをこれハ秋の衣よりとりてゝとあり結勝うり
保の後多の間すもあるさにハゝとうりとゝ　光古今奇ようゝとせりて光てきけ
うばゝの衣とをーてゝあるとあれぐまゝ秋ぐれのみうるとあらく
ゝとうるとあて衣りよりうみまくゝりくてゝ衣とうへさんとハのうふよてゝあるゝあわる
分のゆゝとけのゆゝさよやーられ仏ゝ)がうるよことうりてあるとゝ女よ通紀とつゝて
ゝゝまゝゝゝゝゝしゝゝてゝゝゝくくく